

# 56 静岡大学

Shizuoka University

## 目標達成のむずかしさ ～全種目完走に向けて～

シズオカユニヴァーシティモータース  
Shizuoka University Motors  
<http://sum-fsae.net>



### 今回の総合結果・部門賞

●総合 43位

### Profile チーム紹介・今までの活動

チーム設立以来、他とは異なるサイドエンジンレイアウトをマシンに採用し利用し、総合入賞を果たしてきた。他にも、4気筒600ccエンジンの縦置きレイアウト、シャフトドライブ駆動等、特徴あるマシンとなっている。

### Team-member チームメンバー

#### 竹中 雄太 (CP)

福田 充宏 (FA)、安齋 恵、佐野 心治、河守 基寛、高橋 昇平、内山 泰希、中西 凌、中村 和幹、西 龍之介、馬場 泰光、福田 一樹、藤岡 眞史、渡邊 雄亮、神原 朋子、山田 拓磨、雨澤 朋志、磯川 紗希、黒澤 北斗、笹井 裕司、繁田 健吾、高地 秀、谷口 翔一郎、恒川 尚輝、林 卓史、山崎 智也、高久 貴文、岩倉 理紗、鈴木 賀保子、一毛 大吾、能城 冬馬、鈴木 寛、松田 真秀、八木 計充、中西 勇人

### Sponsors スポンサーリスト

スズキ、静岡大学工学部、和光ケミカル、モータージャパン、IDAJ、NRS、アールズ、清水金属、Takayanagi、シトロ総業、樺葉鉄工所、金子歯車工業、加藤カム技研、協和工業、新日本特機、エヌ・エム・ビー販売、梅澤鋳工、レイズ、ニール・マーケティング、東邦テナックス、ムーンクラフト、昭和飛行機工業、サイバネットシステム、ダウ化工、アンシス、ソリッドワークス、浜松第一塗装、ミスミ、マルイチ、東洋測器、東日製作所、オムロン、ヘンケルジャパン、サイアン、深井製作所、クイック浜名、デイトナ、浜松鉄工機械工業協同組合、日本ロック、住友電装、三菱自動車エンジニアリング

### Presentation プレゼンテーション

マシン名: SS-614

弊チームは他の参加校のようなミッドシップレイアウトではなくドライバーサイドにエンジンを搭載する「サイドエンジンレイアウト」を採用している。これは弊チーム参戦以来の技術であり、ある種のアイデンティティともいえる。これを採用するにあたってレギュレーションとの兼ね合いもあり困難な点も多く存在している。アSEMBL時の左右重量バランスやドライバーテンプレートへの適合などに苦労が多くあった。しかし、それを工夫し1台のフォーミュラカーとして創り上げていくのは「モノづくり」の観点から非常に充実したものがあつた。

### Participation report 参戦レポート

過去静的審査において、事前提出書類の遅れがありペナルティーを受けるという事があつた。今年度はそのような不必要な失点を避けるよう期限やフォーマットなど基本的ではあるが得点には重要な点に注視しながら静的審査には取り組んだ。その結果、コスト審査においては13位を獲得するなど昨年度に對し着実な進歩を見せた。その一方で、チーム内における期日遅延や取り組みの甘さから点数が伸び悩んだという点もある。

動的審査において、オートクロスのみ完走という目標とは程遠い結果となつてしまった。アクセルレーション、スキッドパッドへ出走できなかった原因は大会2日目の技術車検での指摘項目・3日目の騒音試験への対応により出走時間を失ってしまったからである。オートクロスでは107.54点を獲得し目標点を上まわることができた。エンデュランスでは電気シフターの故障を抱えながらの出走となった。このトラブルは大会前から発生しており、原因究明に努めてきたが解決できないまま大会を迎えることとなった。それが原因となり想定量より多くガソリンを使用し、16周にリタイヤすることとなった。

これらの問題は大会を迎える前に防止することが可能であつた。それに対応することができなかったのはチーム全体のタスク、時間、人員の管理が不十分であつたからだと思う。車両としてのポテンシャルは走行会を重ねるごとに感じていたため、チームマネジメントの不足を感じた。

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/56.html>